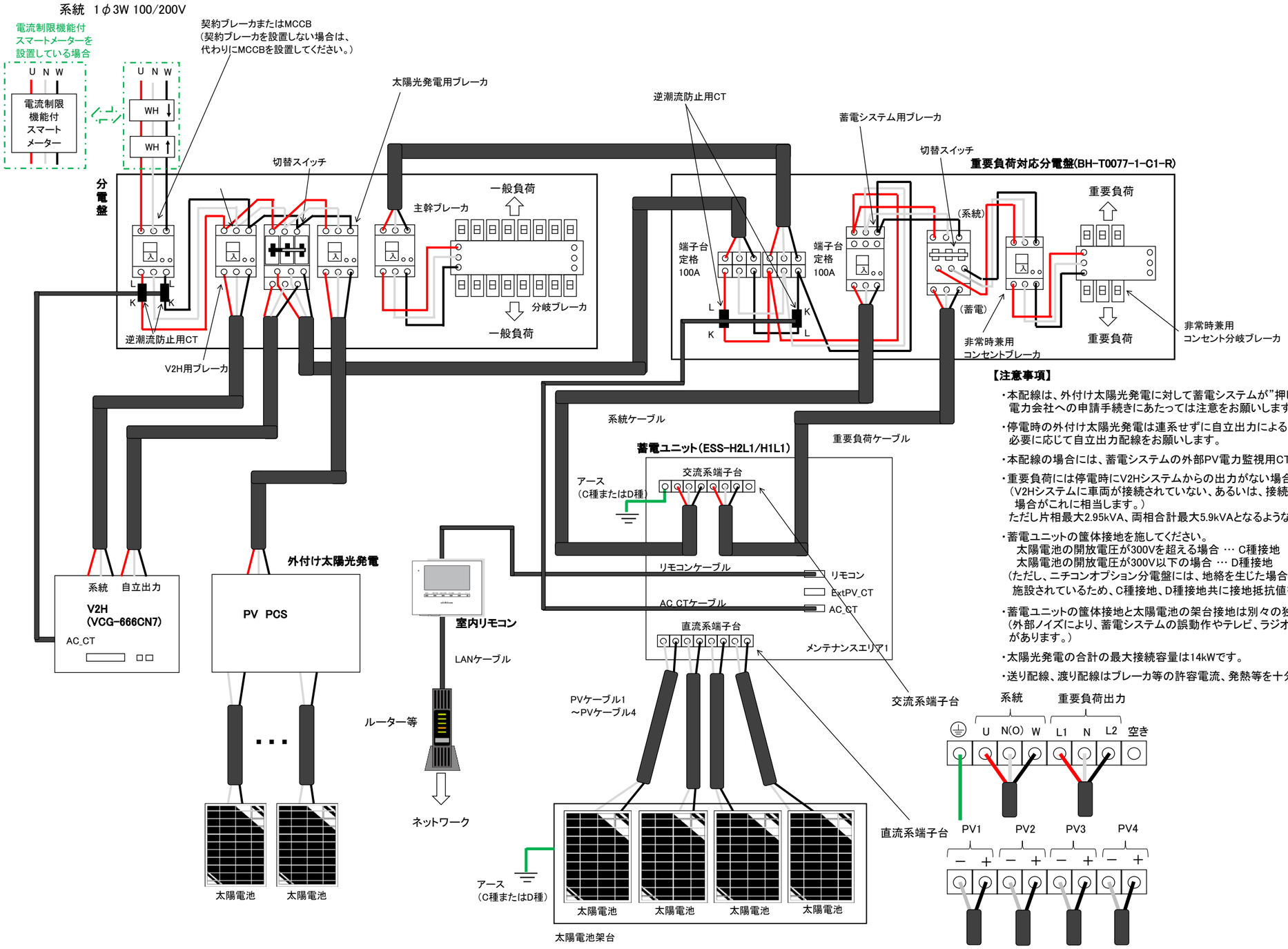
〔V2Hシステム（VCG-666CN7）と蓄電システム（ESS-H2L1/H1L1）の併設〕 ②. 標準 + 外部太陽光発電設置配線（太陽光発電の交流側出力の合計が6kW以上の場合）



【注意事項】

・本配線は、外付け太陽光発電に対して蓄電システムが”押し上げあり”となります。
　電力会社への申請手続きにあたっては注意をお願いします。

・停電時の外付け太陽光発電は連系せずに自立出力による電力供給となります。
　必要に応じて自立出力配線をお願いします。

・本配線の場合には、蓄電システムの外部PV電力監視用CTは接続しません。注意してください。

・重要負荷には停電時にV2Hシステムからの出力がない場合でも使用したい電気機器を接続してください。
　（V2Hシステムに車両が接続されていない、あるいは、接続されていても車両の電池残量が極めて少ない
　　場合がこれに相当します。）
　ただし片相最大2.95kVA、両相合計最大5.9kVAとなるような電気機器としてください。

・蓄電ユニットの筐体接地を施してください。
　　太陽電池の開放電圧が300Vを超える場合 … C種接地
　　太陽電池の開放電圧が300V以下の場合 … D種接地
　（ただし、ニチコンオプション分電盤には、地絡を生じた場合に0.5秒以内に電路を自動的に遮断する装置が
　　施設されているため、C種接地、D種接地共に接地抵抗値を500Ω以内にすることができます。）

・蓄電ユニットの筐体接地と太陽電池の架台接地は別々の独立した接地棒に接続してください。
　（外部ノイズにより、蓄電システムの誤動作やテレビ、ラジオ、無線機器等への電波障害を引き起こすおそれ
　があります。）

・太陽光発電の合計の最大接続容量は14kWです。

・送り配線、渡り配線はブレーカ等の許容電流、発熱等を十分考慮してください。